



君津商工会議所設立 10 周年記念事業として行われたベトナムミッションは谷実行委員長以下 11 名で成田空港を 5 月 22 日午前 11 時ハノイへと飛び立ちました。10 年前には香港経由の便でしたが、今は直行便が運行され、5 時間半でハノイ空港へと無事着陸した。かつてはローカル並だったハノイ空港が今は近代空港に姿を変えていました。

空港では電力不足か省エネなのか照明は暗く、むし暑いだけで南国の明るさを欠いていました。

空港を出ると気温 33 度、突然猛烈なスコールがやってきました。下水道設備が急激な人口増に追いつかない（10 年間で 1 千万人増）からとガイドさんが嘆いていました。

わずか 1 時間位で床下浸水、小型車はエンストの大渋滞となってしまいました。日本とベトナムの時差は 2 時間、その日は時計を早めての夕食となりました。雨の止んだハノイの夜は街を取り巻くいくつもの小さな湖にネオンが反映して美しい夜景を見せてくれました。

明日に備えて「両替」をする。1 万円を換金すると凡 130 万ドンかえってきました。10 年前に 1 万円で 800 万ドンでしたので、大きな輪ゴムでくくられた古い札束は厚さ 20cm 位あり、その晩孫娘に「おじいちゃんは一晩で大金持ちになった気分です」と興奮して書いた覚えがあります。

5 月 23 日はベトナム外務省、日本大使館、ハノイ商工会議所へと表敬訪問で 2 日目を終えた。いずれもこれからの日本の経済へと期待も大で進出・交流をこめて歓迎してくれた。

私が 10 年前農水省から視察派遣された時は「ドイモイ」政策の中で、日本の中小企業、メーカーが進出しベトナムの将来性は大きかったが、経済活動において契約書よりも人民委員会（党）の意向が極めて優先されていたので及び腰の経済交流だった記憶があります。

今では台湾の 11 億ドルについて、日本は 8 億ドルの投資国であり輸出入貿易総額は 59 億ドルとアメリカの 50 億ドルに大きく差をつけています。3 位は中国で 48 億ドル、シンガポール 39 億ドル、台湾が 37 億ドル。また GDP は 5 兆円ですから日本の 100 分の 1 であり、1 人当たりの月収は日本円で凡そ 4 千円前後と安い賃金も魅力であります。

また、ベトナム人は手先が器用であり勤勉な労働力、全国識字率も 93% と高く民族性は日本人とよく似ており、21 世紀はアジアのリーダーとなるであろうと言われる優秀な民族であります。

将来の日本のよきパートナーとしてふさわしい民族だと思っております。今ベトナムは乾季であり、水力発電にたよる電気は不足しており、自家発電器を持たない街は時々停電して、前夜と比べて今夜は暗く戦後の日本を思い出しながら眠ってしまいました。

